

R7年度認定こども園百華保育園

自己評価結果

1、本園の重点目標

◎活動体験を十分に積み重ねる

- ・子どもが主体的、自発的に考えを決めて遊ぶことができるような環境を整える

◎やさしさ、おもいやりがあり人を大切にする子ども

- ・グループ活動、縦割り活動により、互いに思いやり助け合い、話し合いながら協力して活動する力を育てる

2、評価項目の達成及び取組状況

◎ 保育の計画の編成と実施に関する評価

- A たいへんよい
B よい
C 一部検討を要する
D 改善を要する

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1) 保育目標の具現に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか		○			・乳幼児の発達段階や個々の実態を深く把握した上で、それらを具体的に反映した重点目標の設定を目指している。現在は園の方針を職員間で読み合わせる段階に留まっており、全職員による主体的な検討や、深いレベルでの共通理解には課題が残る。 ・今年度は、当園の特色や社会の要請、保護者の願いを再確認し、それらを盛り込んだ重点目標を明確化する。その策定プロセスに全職員が関わる場を設け、単なる周知ではない「共通理解」を図ることで、日々の保育の質向上に繋げていきたい。
	(2) 重点目標は、当園や地域の特色を生かしているか。		○			
	(3) 重点目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4) 重点目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
	(5) 重点目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
保育について	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。		○			・日々の振り返りを丁寧に行うことで、子どもの興味や発達段階を捉え、環境構成に反映させようとする意識が高まった。 ・保育者によって実態把握の深さに差があり、計画の修正が形式的になってしまう場面があった。
	(2) 認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか。		○			
	(3) 環境の構成を意識した保育や課程を常に工夫しているか。		○			
	(4) 素材・用具を適切に活用しているか。		○			
	(5) 評価結果をもとに、保育の改善に努めているか。		○			

日時程	(1)1 日の流れ(デイリープログラム)は現行でよいか。		○			・1 日の流れの枠組み自体は概ね適切である。
行事について	(1)行事の種類や実施回数は適切か。		○			・今年度は「年齢に合った取り組み」を意識して行事を実施したが、振り返ると子どもの主体性・自主性を引き出す関わりに課題が残った。特に行事の完成度を優先し、大人が主導してしまった面は、今後の大きな改善点である。 ・また、乳児クラスの春の行事など、実施時期と発達段階の整合性についても検討が必要である。今後は「行事のねらい」を保育の軸として再確認し、日々の遊びの延長として子どもが自発的に楽しめるプログラムを再構築したい。
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			
	(3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(4)計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。		○			
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか。		○			

◎ 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目		内容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
経営・組織	分掌・体制	(1)能率的・合理的な運営組織になっているか		○			・係や仕事の分担、手順の簡素化などは進んでおり、組織としての効率化は一定の成果が見られる。一方で、職員個々の動きが周囲から把握しにくい場面があり、「誰が・いつ・どこで・何をしているか」という可視化に課題が残る。幼児組担任の業務負担が非常に高く、心身の負担や責任が重くなっている現状がある。事務作業に専念できる時間の確保が不十分であり、日々の保育業務との両立が困難な状況が見受けられる。
		(2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか		○			
		(3)係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○			
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○			現在の会議スタイルには「時間管理」と「目的共有」の両面に改善の余地があります。今後は、単に集まるだけでなく、「個人の事前理解」と「組織的なルールの徹底」を両輪で進めることで、職員が協力し合い、より質の高い施設運営につなげていきたいと思っています。
		(2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			
		(3)打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。		○			
	年齢	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。		○			・日々の振り返りや子どもの姿に関する話し合いを密に行うことで、園の目標を具体化し、子ども一人ひとりの実態に即した「ねらい」の設定に繋げることができた。
		(2)年齢別・クラス目標は乳幼児の実態に即して設定しているか。		○			

	別・クラス経営	(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。		○			・今後は、設定した短期・長期のねらいが、年度末に「どのような姿」を目指すためのものか、より長期的な見通しをチームで再確認する時間を定期的に設ける。 ・夏まつりごっこやお店屋さんごっこ、お別れパーティーなどを通じ、異年齢児との交流を積極的に実施した。特に卒園児に対して在園児が親しみを持つなど、情緒面での好影響が見られた。 ・行事を通じた単発的な交流だけでなく、日常の戸外遊びや自由遊びの中でも自然な形で異年齢が関わられる環境構成(コーナー設定など)を検討し、日常化を図る。
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。		○			
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。		○			
		(6) 評価・諸記録(帳簿類)を集積しているか。		○			
	保険・安全指導	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。		○			・毎朝の視診や連絡帳を通じ、個々の健康状態を確実に把握できている。また、園だよりや感染症情報の迅速な発信により、家庭への啓発や情報共有も円滑に行われている。避難訓練・安全指導も計画通り実施し、安全意識の周知に努めた。
		(2) 避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。	○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○			
		(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。		○			
研究・研修	園内研修	(1) 園内研修の計画・運営は適切か。		○			・自主的に受講したい研修を選択できる体制や、研修報告会の実施により、学びを共有する仕組みは充実している。一方で、園内研修の内容が近年固定化(マンネリ化)傾向にあるため、今後は新たなテーマの導入を検討する必要がある。また、研修の取り組みや実践が年度の後半に偏りがちであるため、年間を通じて計画的・段階的に実践を進められるようなスケジュール管理の改善が今後の課題である。
		(2) 園内研修、研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。		○			
	園外研修	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。		○			
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	○				

◎ 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価							
項目		内容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
情報について		(1)乳幼児や保護者に関する個人情報に適正に取り扱っているか。	○				・適切に取り扱っている。
		(2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	○				
施設・整備		(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○			・計画に基づいた訓練を実施しており、年々質は向上している。職員個々が都度行動を考え、意識を高めようとしている。 ・訓練内容の全体への周知が不十分である。また、時間帯によって誰もが侵入しやすい時間があり、「周到的配慮」という点ではまだ見直しや強化の余地がある。 ・初期状態では美化が保たれているが、時間の経過とともに乱雑になったり、出しっぱなしや返却忘れが発生したりしている。維持・管理のルール徹底に課題がある。
		(2)遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか		○			
		(3)不審者等に対応する周到的配慮を行っているか。		○			
		(4)掲示版、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○			
出納経理		(1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○				・適切に処理されている。
開かれ	施設間交流・連携	(1)他施設との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。			○		・小学校連絡会などの枠組みを通じて、他施設との定期的な情報交換を行っています。また、実際に他施設の保育環境を視察・見学することで、自園の保育の参考となっている。 ・今後はこれらの情報交換や見学で得た知見をさらに深め、年間交流計画が園の具体的な「保育目標」や「直面している課題」にしっかりと連動するよう、内容をより具体化していく必要がある。
		(2)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。		○			
	家庭・地域	(1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか、。			○		・毎週の「園開放」を定期的実施しており、地域や保護者が園の様子に触れられる機会を継続して提供できている。 ・「花まつり」や「おひな様巡り」といった地域の伝統行事やイベントへの参加を通じて、適切な時期に地域
		(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。		○			
		(3)乳幼児の興味や関心にもどづいて地域社会・その他の施設と交流している。			○		

た こ ど も 園 づ く り	社 会 と の 連 携	(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。		○			との連携・交流を深めることができる。 ・感染症等もあり、以前に比べると、全体的な地域との交流頻度や機会が減少傾向にあると感じられるため、子どもたちの興味・関心を起点とした交流の在り方を再検討していく必要がある。
	子 育 て 支 援 の 推 進	(1)地域の子育て支援を推進する施設として、地域に住む親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定をしているか。	○				・園開放の際に親子で過ごせるイベントを計画するなど、地域の居場所づくりに努めている。また、保護者アンケート等の意見も受け止めている。一方で、「自分から相談しにくい」と感じている保護者へのアプローチや、より集まりやすい場づくり、そして確かな育児情報の発信が今後の課題。今後は、子どもの年齢に応じた悩みに寄り添うお便りの発行や、専門機関とも連携した情報提供を積極的に行い、より身近で頼れる子育て支援の充実を図る。
		(2)「子育てについて」など、園や地域の保護者を対象とした学習会の機会を設定しているか。			○		
		(3)職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。		○			
		(4)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している。		○			
	情 報 の 発 信	(1)園だより、クラスだより、HP等で施設の情報を発信している。	○				・園だよりやホームページでの情報発信に加え、ドキュメンテーションを導入・活用することで、日々の保育や施設の状況を分かりやすく伝える取り組みを進める。
		(2)行事や子育て支援事業を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。			○		一方で、地域の連絡会や児童施設、小学校といった関係機関に対して、園の行事や子育て支援事業の情報がどのように届き、周知されているかという実態の把握が今後の課題。今後は、地域社会とのさらなる連携強化に向けて、関係機関への周知方法の見直しや、効果的な情報共有プロセスの確認を進めていく。
	外 部 評 価	(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映している				○	
		(2)地域や保護者の意見を施設運営に反映している。		○			

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は、子どもたち一人ひとりの発達段階や実態に即した保育・教育の質向上を目指すとともに、組織体制の効率化や地域連携の再構築に取り組んでまいりました。

本年度見えてきた最大の収穫は、職員一人ひとりが「子どもの姿」を中心に据えて自らの保育を振り返る意識が高まったことです。そこで生じた「保育者による実態把握の深さの差」や「業務過多」という課題を個人の問題とせず、園全体の組織的課題として捉え、次年度は職員がゆとりと広い見通しを持って、笑顔で子どもたちと向き合える環境づくりに注力してまいります。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
・理念・目標の共通理解と長期的な見通しの共有	・園の方針や重点目標を、単なる職員間での読み合わせや周知に留めず、全職員が策定プロセスから主体的に関わる場を設定します。短期・長期のねらいが「年度末のどのような姿」に繋がるのか、長期的な見通しをチームで定期的に再確認する時間を設けます。
・行事の在り方の見直しと日常の環境構成	・行事の完成度を優先した大人主導の関わりや、実施時期と発達段階の整合性(乳児クラスの春の行事など)を振り返り、今後は「行事のねらい」を保育の軸として再構築します。単発の行事だけでなく、日常の戸外遊びや室内遊びのなかで自然に異年齢が関わる環境構成(コーナー設定など)の日常化を図ります。
・職員の業務負担軽減と「動き・目的」の可視化	・特に業務負荷が非常に高い幼児組担任の事務時間確保が課題です。職員個々の動き(誰が・いつ・どこで・何をしているか)を可視化し、協力し合える体制を作ります。あわせて、会議スタイルの「時間管理」と「目的共有」のルールを徹底し、より効率的で質の高い施設運営を推進します。
・安全・維持管理ルール of 徹底	・不審者侵入などのリスクに備え、時間帯に応じたセキュリティの「周到的配慮」を見直します。また、時間の経過とともに発生する物品の乱雑さや返却忘れを防ぐため、園内の美化・維持管理ルールの徹底を図ります。
・地域子育て支援と関係機関へのアプローチ強化	・「自分から相談しにくい」保護者に寄り添うため、年齢に応じた悩みに応えるお便りの発行や専門機関と連携した情報提供を強化します。さらに、ドキュメンテーション等を活用した発信力を活かし、地域の関係機関(連絡会、児童施設、小学校等)へ園の情報が確実に届いているかの実態把握と、周知方法の改善を進めてまいります。